

「長野市都市計画マスタープラン（素案）」 に対する意見募集等の結果

長野市都市計画マスタープラン（素案）の内容を公表して、市民の皆様からご意見等を募集しました。いただいたご意見・ご提案と、それに対する本市の考え方を下記のとおり取りまとめました。

なお、提出いただいたご意見・ご提案は、取りまとめの便宜上、趣旨を損なわない程度に要約いたしました。

記

1 募集期間

平成29年1月11日（水）から1月31日（火）

2 周知方法

- (1) 長野市ホームページに掲載
- (2) 広報ながの1月号に掲載
- (3) 市役所都市計画課、行政資料コーナー、各支所での閲覧
- (4) 新聞報道等

3 集計結果

(1) 受理件数

7件（6人）

(2) 提出方法の内訳

直接提出	郵送	ファクシミリ	電子メール	電子申請	合計
1通	0通	1通	2通	2通	6通

(3) 意見に対する市の考え方

A：意見等により素案を修正・追加する	0件
B：素案に盛り込まれており修正しない	1件
C：素案は修正しないが今後の取り組みにおいて検討又は参考とする	1件
D：検討の結果素案に反映しない	0件
E：その他（質問への回答、状況説明）	5件

(4) 意見等の内容

意見等に対する長野市の考え方と計画への反映状況等は、別添のとおり

番号	案の該当箇所		意見・提案等の概要	市の考え方	対応状況
	頁	項目			区分
1	—	—	大豆島地区と高田地区を南北に連絡する道路網を整備するため、都市計画道路長野菅平線(3・4・13)と高田若槻線(3・4・36)を連絡する新たな都市計画道路を計画してほしいです。	都市計画道路の計画決定や見直しは、実態調査などを基に将来の交通需要を把握し、効率的な道路網となるよう定期的に行っています。	C:素案は修正しないが今後の取り組みにおいて検討又は参考とする
2	—	—	渋滞の緩和や観光の目玉として、善光寺平の山際を一周(約80km)するようなルートの環状モルールを計画してはどうですか。同時にサイクリングロードを整備して、「高原都市長野」をアピールすることが重要です。	渋滞緩和や観光資源を活かした街づくりの取組みとして、既存道路ネットワークを活用した道路整備や公共交通の利用促進の施策を進めます。また、街なかや自然豊かな観光地の移手段として、自転車の利用促進の施策は、重要と考えています。	E:その他(質問への回答、状況説明)
3	—	—	空き家やアパートの空室が激増しており、今後もこの状況は続く予想されます。この現状は、国の政策に拠るところもありますが、自治体としても①都市計画の大胆な見直し②農地転用の厳格化③空き家、空き地の更新に対するインセンティブの付与④生産緑地制度の活用などできることは実施してほしいです。 空き家が増えているのに、新たに宅地が造成され新築住宅やアパートができるのは矛盾しています。すでに住宅は余っているのだから、「新規の宅地造成は認めない」位の思い切った施策を行わないと、市内の高度経済成長期に造成した団地などでは空き家が大幅に増加する恐れがあります。 超高齢社会に向けて、コンパクトな街づくりを行い未来世代にツケを回すことの無いようにしてください。	本計画では、人口の減少が予想されるなか「空き家、空き地の増加」は重要課題であると捉え、第1編第3章「現況と都市づくりの課題」に記載するとともに、第2編第1章の「都市づくりの目標」に「都市の資産を上手に再生する」と掲げるなど、都市の資産として空き家や空き地の活用を積極的に取り組む旨を記載しております。 宅地の造成については、既存の規制的手法である線引き制度(市街化区域と市街化調整区域の区分)と、新たに策定する立地適正化計画による誘導的な手法を適切に用いながらコンパクトな街づくりを進め都市の空洞化の防止に努めます。	B:素案に盛り込まれており修正しない
4	本編 P 51 100 136	第2編4章 第3編第2章 第4編第1章	計画では、公共交通の利用環境の充実などの観点から、ミニバスターミナルやパーク・アンド・バスライド用駐車場等の整備の必要性について記載されています。更北地域を走る主要地方道長野・真田線を利用するバス等の利用状況は非常に多い状況であり、渋滞緩和に加え利便性、安全性等の向上のためにも早期実現を強く希望します。	地域街づくり構想の整備方針として、交通渋滞の緩和や公共交通の利用促進のため、幹線道路沿いのパーク・アンド・バスライド用の駐車場の整備を位付けています。	E:その他(質問への回答、状況説明)
5	本編 P 101	第3編第2章	八幡原史跡公園は、「川中島の戦い」の場として知名度も高く、長野ICの近くに立地するなど好条件を有しています。近くに長野市立博物館も隣接しており、相乗効果のある整備を強く希望します。	地域街づくり構想の整備方針として、八幡原史跡公園は、レクリエーション、観光や地域振興の面から広域的な交流を促進するための再整備を位置付けています。	E:その他(質問への回答、状況説明)
6	—	第3編第2章	真島地区の活性化や人口増加を目的として、農的な土地利用のエリアを商業地域に指定し、さらに大規模な工業団地の造成や住宅団地の造成などを希望します。また、それら新たな土地利用に必要な、道路や橋などの都市基盤の整備を希望します。	真島地区の多くは、市街化調整区域に指定されており、都市全体の健全な発展と計画的な街づくりを図るため、市街化を抑制し、農地等を保全する区域に位置付けられています。 人口増加が見込まれた高度成長期には、新たな住宅需要に対応し、都市環境の悪化を防ぐため、市街地を拡大してきました。しかし、都市全体の人口が減少し、既存市街地においても人口が減少するなか、新たな市街地の拡大は、都市全体の活力の低下を招く恐れがあることから困難と考えております。 市街化調整区域では、地域の生活が守られ、地域に住み続けられるよう地域コミュニティの維持を目指す街づくりを目標としています。	E:その他(質問への回答、状況説明)

7	本編 P 103 ～ 108	第3編第2章	<p>篠ノ井駅東口周辺には暮らしに必要な施設が集積していますが、商店街の賑わいが失われつつあります。一方で当該エリアでは、公共施設のリニューアルや道路整備などの計画が進み、人の流れが戻ることが期待されています。</p> <p>南部図書館の建替え場所の選定にあたっては、現施設が現地に建設された歴史的背景や、施設が集積状況などを勘案して駅東口にしてほしいです。</p> <p>施設の計画は、図書機能だけでなく市民が集い交流ができる複合施設となるよう、専門家の協力を得ながら市民参加によるプロセスにより策定することを望みます。</p>	<p>篠ノ井駅周辺は、市南部の地域拠点として、広域的な交流の促進や生活文化機能の集約により、都市機能を向上させる街づくりが必要と考えております。</p> <p>篠ノ井地区の公共施設のありかたについては、公共施設再配置計画等の他部局と連携や地域意見を集約した施設計画の策定を目指していくものと考えております。</p>	E:その他(質問への回答、状況説明)
---	----------------------	--------	---	---	--------------------